



土屋 美乃 (つちやよしの)

慶応大学商学部3年
UNISEC 事務局インターン

事務局より はじめまして

皆さまはじめまして、こんにちは。私、UNISEC 事務局でお手伝いをさせていただいています。宇宙好きな一文系女子大生です。私は多くのUNISECに参加されている学生さんとは違い、宇宙やシステムに関してはド素人なのですが、とあるきっかけで宇宙に魅了され、板倉コンベの運営側としての参加などを通し、『ものづくり』に燃える学生さんやその他参加者の方々の姿に、ますます魅力を感じるようになりました。

宇宙に関しては、知る機会が普段の生活の中にはあまりありません。なので、少しでも多くの方に宇宙の魅力を知ったときの感動をしてもらいたいという思いから、少しでもUNISECのアウトリーチ活動に貢献できたらと思っています。

UNISECに参加しませんか？

UNISECでは、会員を募集しています。学生と一緒に宇宙活動を支援したい方から、時間は無いけど、エールを送りたい方まで、参加の形は問いません。

お申し込みは info@unisec.jp まで

インタビュー 動き出したUNISON

『カンサットキットは、その実現にあたって考えなければいけない問題点はたくさんある。でも、ノウハウの共有、技術力の底上げ、さらには一般の方の目もひけるかもしれない、アウトリーチとしても意義のあるものであることは間違いない。』

前回のニュースレターでも紹介のあった『UNISON』。今回はその代表の中村さんがさらにそのUNISONにかける思いを熱く語ってくれました。UNISONとしての活動の第一歩である『カンサットのキット化』。確かにその実現にむけて難点も多くあると思います。しかしその難点の存在で最初からあきらめては何か生まれない、そのメリットを信じて前に進むことに意義がある、と言う中村さんの言葉からは本当に強い意志を感じられました。

『ものを実際に作る楽しさをおおくの人に味わってもらいたい。もちろん、新入生にもものづくりの楽しさをそのフレッシュな状態から肌で感じてほしい。』

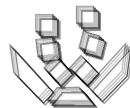
中村さんは、とてもほがらかな人柄ですが、UNISONの活動に関して、そして宇宙開発に関して自分のミッションを語る時の力強さには、こちらも希望と夢を与えてもらえます。宇宙が好きな方々はそれを語る時、なんともいえない素敵な目の輝きかたをするのですね。

宇宙開発という国家レベルの大きなプロジェクトでも、学生自身が、学生のうちから何かできることがないかと落としこんで考え、さらにそれをもっと多くのひとへのアウトリーチまで考えている、ということに大きな感動を受けずにはいられませんでした。前回のニュースレターで紹介のありました『UNISON』はまさにそれを形にしていこうと動き始めています。

今まで、個々の大学でのみの情報や創造的思考の共有だったものが、このUNISEC・UNISONの存在により全国の大学の連携ができたことで、さらにすばらしい画期的なアイデアが生まれるのでは・・・!!と、事務局にてわくわくしながら期待しています。

UNISEC ニュースレター春号

発行：UNISEC 事務局
発行日：2004年4月8日
編集：吉田聡子
連絡先：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学工学系研究科航空宇宙工学専攻内
<http://www.unisec.jp> Email: info@unisec.jp



春 - 新メンバーを迎えて

UNISEC 事務局長 川島レイ



春は、変化の多いときです。別れと出会い、卒業と入学、終わりと始まりが一度にやってきます。そんな中で、一人ひとりが、気分を一新して、種まきをはじめるときです。

私が生まれ育った北海道では、春は、ドラマチックにやってきます。雪が消えたかと思うと、一気に春になるのです。長い冬の間、寒さの中でじっと耐えていた命が、春の暖かな陽射しを浴びると、一度に芽吹き、梅も桜もタンポポも、ほぼ同時期に咲き乱れます。全国標準の教科書で書かれた「順番にゆっくりやってくる」春の情景とは趣を異にした「一度にやってくる春」が、そこかしこにあふれたかと思うと、じめじめした梅雨を飛び越して、あっというまにさわやかな夏がやってきます。

今から5年前、日本で初めて、手作りの衛星「カンサット」に挑戦した東大・東工大の学生の皆さんのチャレンジが、本になって出版されることになりました。いまや、カンサットは、「レシピ」や「キット」を作るプランが出てくるほどに一般的になりましたが、初めて取り組んだパイオニアの学生たちの苦勞は、相当なものでした。でも、最初のその壁を乗り越えたからこそ、今日のように、学生が参加する宇宙開発が可能になったのです。

ご縁があって、カンサットの最初の打ち上げの年に、この活動を知る機会を得た私は、2001年にUNISAT(大学衛星コンソーシアム)の立ち上げを手伝い、その後、ロケットグループと合併して、UNISEC(大学宇宙工学コンソーシアム)となってからはNPO化に携わり、事務局として活動のサポートをしてきました。

UNISECの活動の広がりには、北海道の春なみに急激なものでした。この一年を振り返ると、東大・東工大のキューブサット打ち上げ成功に代表される、リアルな宇宙技術開発があちこちで展開されています。技術もさることながら、地球の未来が明るいことを予感させてくれる学生さんに出会うたび、新鮮な喜びと驚きを感じます。

UNISECは、種まきをする場です。どんな種をまいて、どんな花を咲かせたいのか、一人ひとりが考えて、どうぞ、よい種をまいてください。太陽も空気も雨もミツバチも、種を育てるには必要です。ありがたいことに、UNISECにはそのような役割を担ってくださる方々も集まっています。善意に満ちた暖かな応援と支援の輪が広がっていますから、種をまけば、すくすくと育つはずですよ。

新しく参加された皆さん、どうぞ、のびのびと種をまいて育ててください。そうして、花が咲いたら、ともに喜びを分かち合いましょう。